

## ほっとルームに関するQ&amp;A

Q1	ほっとルーム設置の目的は何ですか。
A1	<p>ほっとルーム設置の主な目的は、<b>現在登校できている児童生徒の中から新規の不登校児童生徒を出さない</b>ことです。登校することが難しい不登校児童生徒の再登校を支援することも目的の1つではありますか、ほっとルームは学校内にあるため、そのような児童生徒が通室するのはハードルが高い場合があると考えています。よって、ほっとルームで主に支援できる児童生徒は、以下のように想定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に入ることは難しいが、ほっとルームであれば登校することができる児童生徒</li> <li>・教室に入ることはできているが、教室で過ごすのがつらくなってきており、このまま教室で過ごし続けたらそのうち登校できなくなると予想される児童生徒</li> </ul> <p>こういった児童生徒が、学校内で少しでも安心して過ごせるための校内の居場所が『ほっとルーム』です。なお、登校することが難しい不登校児童生徒のための学校外の居場所については、Q9をご覧ください。</p>
Q2	ほっとルームでは、どのような対応をしていただけますか。
A2	<p>ほっとルームでは、ほっとスタッフが<b>通室生の見守りや話し相手・相談相手、学習支援(=通室生が学級担任から指定された学習課題に取り組む際の支援)</b>などをしています。<b>学校の玄関まで来たものの校内に入れない</b>ている児童生徒への対応を行うこともあります。また、<b>通室生のほっとルームでの様子について、担任や管理職に情報共有</b>もしています。</p> <p>ほっとルームに通室生が来室していない場合には、授業中や休み時間に校内を回り、多くの児童生徒と関わる機会を意図的に設け、ほっとスタッフを身近な存在に感じてもらい、いざ教室に入りづらくなった際に、「あのほっとスタッフさんがいるならほっとルームに行ってみようかな。」と思ってもらえるような関係づくりに努めています。</p>
Q3	ほっとルームでは、学習面のサポートはしていただけるのでしょうか。
A3	<p>通室生の学習保障は不要であると考えているわけではありませんが、人材や財源が限られている中で、中能登町としては、<b>まずは『ほっと安心できる居場所』</b>であることに重点を置いています。</p> <p>ほっとスタッフは教員ではないため、<b>学習指導(=教育課程に基づいた未習内容の指導など)</b>はできません。ただし、通室生が<b>ほっとルームで自習(=ドリルやプリントなど学級担任から指定された学習課題)</b>に取り組む際の支援を行うことがあります。また、通室生が希望する場合には、<b>オンライン配信授業(=教室で行われている授業をオンラインで配信するもの)</b>をほっとルームで視聴することが可能です。</p>
Q4	ほっとスタッフはどういった方がされていますか。
A4	中能登町では、教室に入りづらい児童生徒と直接関わるために必要な知識や経験、技能を有している方を採用しています。現在のほっとスタッフは、保育士経験者や小中学校支援員経験者です。
Q5	ほっとルームの通室生に対して他の児童生徒が「ずるい」「さぼっている」といった否定的な見方をして通室生が負い目を感じるようなことはないでしょうか。
A5	そのようなことがないよう、通室生にも他の児童生徒にも、ほっとルームについて正しく理解できるよう各学校において適宜話をていきます。
Q6	ほっとルームがあることで、不登校傾向のない子が苦手な活動を避けるためにほっとルームを安易に利用するケースが出てきませんか。
A6	ほっとルーム開設前にはそのような懸念もありましたが、各学校において、ほっとルームを運用していく中で生じた課題については、その都度教職員で協議のうえ改善していっています。今後も、ほっとルームが適切に利用されるよう改善に努めています。
Q7	今回のアンケートでほっとルームの存在を初めて知りました。ほっとルームについてもっと保護者に情報発信をしたいいいのではないでしょうか。
A7	今回のアンケート結果で、ほっとルームを「知らなかった」という方が4割を超えました。この結果を受け、今後は学校から保護者様に適宜ほっとルームについて情報発信をしていきます。
	なお、中能登町のほっとルームの特長は、ほっとスタッフが毎日朝から午後まで常駐していることです。

	中能登町の場合	他自治体の場合(例)						
勤務日	月～金曜日まで毎日	週2～3日のみ						
勤務時間	児童生徒の始業前から終業頃まで	9時から昼頃まで						
他自治体の場合、「ほっとルームに来室したものの、その日はほっとスタッフが出勤しない日で、学校職員が代わるがわる様子を見に来てくれるものの、通室生は次にどの職員が来るのか分からず落ち着かないし、学校職員がおらず一人で過ごす時間帯もある。」「保護者が朝の始業前に学校の玄関前までお子さんを連れて来たものの、お子さんがなかなか学校内に入ることができず、ほっとスタッフは出勤前であり、朝の始業前の慌ただしい時間帯のためじっくり対応できる学校職員がおらず、保護者も出勤時間が迫ってしまい、保護者も学校もお子さんに丁寧な対応ができない。」といった問題が生じる場合があります。その点においては中能登町の場合、そのような問題を解消するために、ほっとスタッフがほっとルームに常駐できる勤務にしました。								
Q8	ほっとルームにも行けない場合、自宅でオンラインによる授業配信や相談を受けることは可能でしょうか。							
A8	オンライン授業配信については、各学校において既に可能な範囲で対応していますので、学校にご相談ください。							
Q9	学校に行きづらい子のために、学校外の居場所を開設してもらえませんか。							
A9	中能登町としても学校外の居場所の必要性を認識しており、このたび学校に行きづらい児童生徒のための学校外の居場所として、『ぐんぐん*療育教室』と『ななお・なかのと就労支援センター』の受け入れ態勢が整いました。近々、町教育委員会から利用案内をドモンで配信します。さらに、それとは別の学校外の居場所についても開設準備を進めており、開設時期の目処が立ちましたらお知らせします。							
Q10	「ほっとルーム」「ほっとスタッフ」という名称は、すべての自治体共通ですか。							
A10	「ほっとルーム」「ほっとスタッフ」は、いずれも中能登町独自の名称です。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>中能登町</th> <th>国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほっとルーム</td> <td>校内教育支援センター、SSR(スペシャルサポートルーム)など</td> </tr> <tr> <td>ほっとスタッフ</td> <td>校内教育支援センター支援員など</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、「ほっとルーム」「ほっとスタッフ」という名称の由来は、教室に入りづらい児童生徒が「ほっと安心できる居場所」にしたいという希望を込めてつけました。</p>	中能登町	国	ほっとルーム	校内教育支援センター、SSR(スペシャルサポートルーム)など	ほっとスタッフ	校内教育支援センター支援員など
中能登町	国							
ほっとルーム	校内教育支援センター、SSR(スペシャルサポートルーム)など							
ほっとスタッフ	校内教育支援センター支援員など							